

2019年日本数学会出版賞の推薦募集について

理事長 小藪 英雄

20世紀以来著しい進展を遂げた数学の研究には我が国の数学者も大きく貢献しており、本会も我が国における数学研究の環境整備に努めて参りました。ところが、数学が高度に専門化したため、数学の果たす重要な役割が一般の方々はもとより、理科系の専門家にも理解されているとは言い難い状況があります。

一方、数学の魅力や巧みに伝える一般向け啓発書が出版されるという誠に喜ばしい事例も昨近相次ぎみられ、本会としましては側面から応援したいと考えております。また、数学諸分野の有機的連携を図り、自然科学、社会科学との協力関係を促進するためにも、数学の魅力や目覚ましい発展の真髄を他分野の専門家のみならず一般にも判りやすく伝える数学者の努力も奨励したいと考えております。

そこで、本会では「出版活動などの著作活動により、数学の研究・教育・普及に顕著な業績をあげた活動を顕彰」するために、日本数学会出版賞を設けて2005年春に授賞を開始し、これまでに、次のように日本数学会出版賞を贈呈しました。

(敬称略，順不同)

2017年

- 上智大学大学院理工学研究科理工学専攻数学領域『上智大学数学講究録』
(授賞理由) 本書は、上智大学理工学部旧数学科により出版されていた大学院生向け講義録のシリーズである。私学の厳しい制約のある中で、幅広い分野にわたり、しかも長い年月を通じて継続的に編集・出版されてきたという点に格別な尽力が認められる。一数学教室の活動の記録に留まらず、基本的な文献として貴重なものや、成書となっていない最新の研究内容を紹介したものが含まれているなど、数学の研究・教育および普及への貢献が著しい。さらに各巻の電子化が促進されれば、引き続き大きな貢献が期待される。
- 松本幸夫
(授賞理由) 松本幸夫氏の著書「多様体の基礎」, 「Morse 理論の基礎」, 「4次元のトポロジー」, 「トポロジー入門」等, どの入門書も丁寧で分かり易いと高い評価が得られており, いずれも長く読み継がれている。教科書として採用されることも多く, また自習書としても広く利用されている。読み手を楽しませるような記述や工夫された図版なども大きな特徴であり, 単なる良い教科書というレベルを遥かに超えたインパクトのある解説は, 初学者から専門家まで多くの人々に多大な影響を与えている。このように松本氏の著作は大学教養数学から現代先端数学への橋渡しという非常に重要な役割を果たし続けており, 数学の研究・教育および普及活動への貢献が著しいと認められる。

- 中村義作

(授賞理由) 中村義作氏は、著書『マンホールのふたはなぜ丸い?』、『常識を越えた数の世界』、『美の幾何学』、『エッシャーの絵から結晶構造へ』など、組合せ数学・有限数学に関する専門的なものから、一般読者向けの平易なものまで幅広く、期間も1950年代から最近までと長きにわたり、様々な数学関連書を上梓してこられている。簡潔ながらユーモラスで、数学特有のひらめきを得たときの楽しさを雄弁に語る氏の筆致は独特である。版元を変えて長く読み継がれている解説書もあり、またオリジナリティーあふれる数学パズル集で数学の楽しさに開眼した読者も少なくない。翻訳者、翻訳監修者として携わった著作も多数有り、数学文化の普及に果たされた功績は非常に大きい。

2016年

- 秋山仁

(授賞理由) 秋山仁氏は、教育・研究の経験を生かした参考書・教科書、テレビ・ラジオ番組に関連したテキスト、グラフ理論・離散数学の専門書などの執筆により、小中学生を含めた広範囲の読者に数学の魅力や重要性を分かりやすく伝えてこられた。30年以上にわたる活動の中で著された、他に類例をみないほど多数の著作の中には、Mari-Jo Ruiz 氏との共同の著作 A Day's Adventure in Math Wonderland (World Scientific 2008) のように、複数の言語に翻訳され、世界中の人々に愛読されているものも含まれている。秋山氏の出版活動を通じた貢献は出版賞に相応しいものである。

- 内村直之『古都がはぐくむ現代数学—京大数理解析研につどう人びと』(日本評論社)

(授賞理由) 本書は、京都大学数理解析研究所を舞台として、創立から半世紀にわたって繰り広げられてきた、戦後の日本の数学者たちによる研究最前線での活動の様子を、いきいきと描き出した書物である。綿密な取材と深い数学の理解にもとづいて書かれた本書は、現代数学の最前線の様相を、一般読者のみならず、数学をまなぶ学生たちや数学者からも、読み応えのある書物として迎えられている。本書は、日本の数学啓蒙書の新しい地平を切り拓いており、出版賞に相応しいものである。

- 高橋礼司

(授賞理由) 高橋礼司氏は、20年を超えてフランスでの学究生活を経験し、研究者として初期のブルバキメンバーの多くと個人的に親交をもっておられる。著書『複素解析』と『線型代数講義—現代数学への誘い』はいずれも、古典に対する深い理解と透徹した理論構成に基づいて書かれており、教科書の枠を超えて数学の奥深さを平易な言葉で綴った名著である。また、J. デュドネ『人間精神の名誉のために—数学讃歌』、M. マシャル『ブルバキ—数学者達の秘密結社』や、最近の J.-F. ダース他『謎を解く人びと—数学への旅』などの洗練された翻訳は、フランス数学への深い理解があって初めて可能となったものであり、日本の読者に現代フランスの数学の文化と思想に直に触れる機会を提供している。高橋氏の長期にわたる著作活動は、数学文化の架け橋として日本の数学界にとって貴重な貢献であり、出版賞に相応しいものである。

2015 年

- 伊東俊太郎

(授賞理由) 伊東俊太郎氏は、科学史・数学史の精緻な研究により培われた素養を生かして、多くの著作を発表されている。『ギリシア人の数学』、『近代科学の源流』、『十二世紀ルネサンス』等では、数学に主眼をおいた科学史の専門的研究の成果を、一定の水準を保ちつつ、広範囲の読者層に見通しよく紹介された。日本での数学史研究の画期をなす『ユークリッド 原論』の邦訳も分担された。また『数学の歴史 II 中世の数学』、『科学史技術史事典』等の編集・編纂に関わり、後進を育成しつつ、この分野に親しみ、また研究するための指針を与える書籍を送り出された。数学の歴史という分野への、著作を通じた多面的な寄与は、他者の追従を許さないものである。

- 赤攝也

(授賞理由) 赤攝也氏は 1950 年代に『数学序説』、『集合論入門』、『確率論入門』を上梓され、多くの数学志望の学生に影響を与えた。これらの書籍はいずれも文庫化されており、時代を超えて読み継がれている。この後も、『微分学』、『積分学』、『変分学』、『基礎論』などの教科書、概説書の執筆をはじめとして、B.H. アーノルドの『トポロジー入門』などの多数の翻訳を手掛けられた。それと同時に、培風館の『新数学シリーズ』などの叢書の編纂や日本評論社の雑誌『数学セミナー』の編集顧問も務められた。これらの多彩な出版活動を通して、我が国の数学文化の普及と発展に尽くされた功績はまことに日本数学会出版賞にふさわしいものである。

- 一松信

(授賞理由) 一松信氏は、『解析学序説』などの教科書、『数値解析』などの専門書、そして『石取りゲームの数理』などの啓蒙書と、長年にわたり数学の極めて幅広い分野において、数多くの、しかも良質の専門書、教科書、啓蒙書を執筆されてきた。その中には、『正多面体を解く』や『高次元の正多面体』といった日本では先駆的な試みの著書、マーチン・ガードナーの『数学魔法館』のような多数の一般向けの啓蒙書の翻訳、そして森北出版の『数学選書』や『新数学シリーズ』のようなシリーズ本の監修も含まれている。このような精力的な著作活動による日本の数学の研究、教育、普及への寄与は非常に大きなものがある。

2015 年より前の情報は、<http://mathsoc.jp/prize/pubprize/> をご覧下さい。

2019 年日本数学会出版賞の会員による推薦を次の要領で募集します。

2019年日本数学会出版賞の推薦要領

- **趣旨** 出版活動などの著作活動により、数学の研究・教育・普及に顕著な業績をあげた活動を顕彰
- **対象** 著作物、もしくは著作物等の著者、編集者、制作者、出版者などの個人または団体。
 - * 特定の著作物等のみならず、個人・出版者等による普及活動全般も対象とします。
 - * 個人に授賞する場合は、授賞発表時点での存命者に限ります。
 - * 「著作物等」には、書籍、雑誌、ビデオ、DVD、電子媒体等を含みます。論文は研究業績を顕彰する他の賞の対象でもありますので、原則として対象とは致しません。
 - 著作物等の場合に想定する対象としては、数学専門家向け書籍・雑誌、数学専攻大学院生向け専門書、学部学生用教科書、大学生・高校生・中学生・小学生等を対象とする啓発著作物等、非数学者向けの専門書籍・雑誌、一般を対象とする啓発著作物等が考えられますが、これら以外でも、賞の趣旨に適うものが推薦されてくれば審査対象とします。
 - 和算関係の著作物等も対象とします。
 - 著作物等の場合、原則として日本語によるものを対象としますが、日本人著者による外国語でのオリジナルな著作物等や、日本語による著作物等を翻訳して世界に普及させたものも対象とします。
 - 日本語への翻訳著作物等も、訳者、編集者、出版者を対象とします。
 - 著作物等の場合、審査時点で入手可能なもののみを対象とします（推薦時に現物を提出する必要はありませんが、選考委員会が推薦者に対して審査対象著作物等の一時貸与を御願いする場合があります）。
- **推薦件数等** 他薦（各会員毎の件数は問わない）
- **推薦書類** A4版用紙2枚以内に、次の事項を御記載下さい。
 1. 推薦者氏名、数学会会員番号、連絡先住所、電話番号、電子メール宛先。
 2. 特定の著作物等に関して推薦して頂く場合には、顕彰すべき対象と著作物等の書誌事項（著作者名・翻訳者名等、著作物等題名、出版者等名称、出版年、その他）。
 3. 編集者・制作者・出版者等に関してその活動を推薦して頂く場合には、その対象名と顕彰対象とすべき具体的事項。
 4. 推薦して頂く理由。
- **推薦書提出締切** 2018年6月30日（土）（必着）
- **推薦書提出宛先** 〒110-0016 東京都台東区台東1丁目34-8
日本数学会出版賞選考委員会 宛

2019年日本数学会出版賞推薦書

必ずしも本書式を使用しなくて結構です。他薦する各候補毎に、下記の必要事項を A4用紙2枚以内 に御記載下さい。

推薦書提出締切 2018年6月30日（土）（必着）

推薦書提出先 〒110-0016 東京都台東区台東1丁目34-8 日本数学会出版賞選考委員会

- 推薦者氏名
 - * 数学会会員番号
 - * 連絡先住所
 - * 電話番号
 - * 電子メール宛先

- 他薦する候補（件数は問いません。本号掲載の推薦要領を御覧下さい。）
 - * 特定の著作物等の場合
 - 顕彰すべき対象
 - 著作物等の書誌事項（著作者名・翻訳者名等，著作物等題名，出版者等名称，出版年等）
 - * 編集者・制作者・出版者の活動の場合
 - 顕彰すべき対象名
 - 顕彰対象とすべき具体的事項

- 推薦理由